



地域の未来を町全体で考えるきっかけに

### 大浜町区長会 大浜地域未来交流館「晴耕雨読」

因島大浜町は海と山に囲まれた人口700人ほどの小さな集落です。

大浜保育所が平成28年3月での閉園が決まったことをきっかけに、私たちの取り組みは始まりました。

以前から高齢者の多い地域でしたが、町で唯一にぎやかな子どもたちの声が聞こえていた保育所がなくなると、急激に町の元気が無くなるのではないかと危機感を感じていました。

そこで、大浜町区長会をはじめ、町内の各種団体などから跡地活用検討委員会を結成し、毎月話し合いを重ねていきました。結果、幅広い世代や地域内外の交流の拠点として活用していこうということになったのです。

そして尾道市から建物の譲渡を受け、認可地縁団体「大浜町区長会」が自主運営をすることとなりました。

### 平成28年11月、大浜地域未来交流館 -晴耕雨読-としてオープン

オープニングイベントでは、大浜町の方々にも声をかけ、産直市や飲食物の販売を行ってもらい、約300人の来場がありました。普段の使い方としては、レンタルスペースとして教室を有料で貸し出し



海沿いの立地を生かした園庭マルシェには地域内外から人や物が集まってきた

一度は閉じられた園内に今も子ども達の元気な声が響く

ています。加えて不定期ですが、音楽イベントや展示会、カルチャースクールなども開催している他、大浜町出身の(株)クボタ創業者「久保田権四郎翁」と町にまつわる歴史パネルなども常設展示しています。

また園庭を無料開放することで、子どもからお年寄りまで憩いの場として集い、日常ににぎわいを取り戻すことができました。

### 参加意識が、人のつながりを深めていく

晴耕雨読は、やりたい人がやりたいことをする場所です。初めは遠慮しがちだった町の人たちも、ここで野菜や果物を売りたいとか、釣った魚を販売したいと、徐々に自らやりたいことを言うようになってくるようになりました。以前は、やりたくてもなかなか口に出せなかったことが、形になることを理解して貰えるようになって、地域の意識が少しずつ変わってきたように感じます。自ら動く人を増やしていくことが、まちづくりには欠かせないと思います。

### 地域の仕組み作りとして さまざまな機能を追加

今後は、大浜町の生活インフラにもつながる食品関係の販売や、チャレンジカフェなどの定期的な開設を考えています。将来的には雇用の場になればいいと考えています。

地域で何か活動がしたいと思っている人の最初のきっかけづくりを行い、地域内外の子どもから大人まで、さまざまな人達の交流の場として活用される場所として、これからも活動していきます。

今後も町民一体となり、埋もれていく地域資源を発掘し、活気ある大浜町を作っていきたいと思えます。

☎大浜地域未来交流館 晴耕雨読  
(因島大浜町1691-3 ☎0845-24-2778)

地域の特色を活かした活動をしておられる方や団体をご存知の方は情報をお寄せください。みなさまから寄せられた情報をもとに取材し、広報等で紹介していく予定です。  
☎政策企画課(☎0848-38-9435) ✉kikaku@city.onomichi.hiroshima.jp



# おのみち

Onomichi City 平成29年(2017) 5月号 No.1028

## 特集

### ひとりじゃない みんなで育てる 尾道っ子vol.1